



チーム嶋村 ガバナー月信

Take Action for Rotary Future. Reach Out for World Peace.

第3号 2022年9月発行



親愛なる会長のみなさん

みなさんの会長年度がスタートしましたが、手応えいかがでしょうか？ 自身のイメージ通りに進むことができているでしょうか？ 新型コロナウイルスの第7波に見舞われている中でのクラブの運営、たいへんご苦労されているかと思われませんが、笑顔と希望を持って前進して欲しいと願っています。

また、例会のハイブリッド化をお考えの場合は、チーム嶋村クラブ運営支援部門 ICT 委員会にお気軽にご相談いただければと（地区研修協議会テキストのP.31-32にも掲載ございます）。

1. ガバナー公式訪問を進めています

8月10日までに14のクラブのガバナー公式訪問が終了しました。9月9日、10日の地区大会までに27のクラブのガバナー公式訪問を予定しています。ガバナー公式訪問の最初のプログラム、会長幹事懇談会は、ガバナー補佐のみなさんによる事前のクラブ協議会の報告が活かされ、有意義で有難い時間となっています。会長自らの言葉で「会長テーマ」を聴かせていただきながら、その熱い想いに毎回感激しています。また、さまざまな「クラブの風土」があることを感じています。会長幹事と語り合う中で、コミュニケーションがアップされ、互いに親近感を感じています。次のプログラムである、例会でのガバナーアドレス（卓話）もフランクに始めることができます。また、会長の意向を踏まえてガバナーアドレスをさせていただいています。



一部のみなさんが心配されている「ガバナー公式訪問フォーラム」は、2クラブを除き実施されています。確かな手応えを感じています。「ガバナー公式訪問フォーラム」の実施手順も取り上げるテーマもさまざまですが、会長のみなさんにとり、多くの会員の声を聴く機会となり、今後のクラブ運営や「元気なクラブづくり」のために役立つと感じていただけているようです。たいへん嬉しく思っています。これか

チーム嶋村 ガバナー月信

ら「ガバナー公式訪問フォーラム」を実施されるクラブの会長のみなさんには、会員のみなさんにとっても有意義なものになるように、準備していただきたいです（詳しくは今月号の「鼎談」に参考情報の掲載がございます）。

「ガバナー公式訪問フォーラム」を行う中で気付いたことがあります。「クラブフォーラム」が行われていないクラブがあるということです。私の所属している東京東江戸川 RC は五大奉仕で行っています。奉仕ごとにテーブルに分かれて議論を行い、テーブルごとに発表するというものです。今回の「ガバナー公式訪問フォーラム」の経験を活かして、今後もクラブにおける対話の機会を作って欲しいと願っています。

2. 「環境保全クリーン活動」の第一弾が実施されました

「環境保全クリーン活動」は、国際ロータリーの7つ目の重点事項として追加された「環境」について Take Action します。7月31日（日）、沖縄県那覇市にある「波の上うみそら公園」での「ビーチクリーン活動」と、荒川河川敷での「荒川クリーンエイド」がそれぞれ約50名の参加で実施されました（詳しくは今月号に「ガバナー月信編集委員レポートと会長コメント」がございます）。「環境保全クリーン活動」の特筆すべきところは、複数のクラブの会員が家族と共に参加されたことです。チーム嶋村社会奉仕部門は参加型の社会奉仕活動、また、他クラブの社会奉仕活動に参加することを推奨しています。会員が奉仕の充足感を得ること、そして、自クラブだけでなく他クラブの奉仕活動も知ることにつなげていただきたいと考えています



「環境保全クリーン活動」の第二弾は9月25日（日）です。既に複数のクラブが開催を計画しています。また、クリーン活動以外の地域でのさまざまな奉仕活動も計画していただきたいです。計画ができあがりましたら、チーム嶋村社会奉仕部門に情報をご連絡いただきたいです。チーム嶋村社会奉仕部門通信への掲載により、他クラブの社会奉仕活動に参加するための情報を得ることができます。他クラブの社会奉仕活動に参加することは、新しい仲間ができるとともに、自クラブの社会奉仕活動への新しいアイデアが生まれる可能性ともなります。また、地域の人々と一緒に行い、地域の人々に喜ばれる社会奉仕活動はロータリーの公共イメージの向上にもつながります。

まさに、「Take Action for Rotary Future ロータリーの未来のために行動しよう」です。

3. 「スタート型の地区大会」へのカウントダウンが始まっています

9月9日、10日に開催される地区大会まであとわずか。ホストクラブである東京新都心 RC のみなさんのご尽力で、各クラブの会長・会員のみなさんを迎える準備も進んでいます。本地区大会は「ロータリーに夢を」をスローガンにしています。ロータリーの力とつながりを活かして素晴らしい未来を描くことが、今、私たちに求められているからです。

下記の本地区大会の意義をご確認いただき、会員のみなさんに改めてお伝えいただきたいです。

「ロータリー年度の前半に開催することにより（当地区では20年ぶり）、年度前半でRI会長テーマや地区運営方針などをしっかり理解いただく、「スタート型の地区大会」です。ご参加いただいたみなさ

まが共感できるとともに、「元気なクラブづくり」のために、今後のロータリー活動に意欲が高まるプログラムとなっています。また、私たちの未来であるロータリーファミリーが参加しやすくすることで（本会議を土曜日としました）、ロータリアン・ロータリーファミリーお互いにとって刺激となることを目指しています」

ぜひとも、多くの方にご参加いただき、自らがロータリアンであることを楽しく感じて欲しいと願っています（今月号にロータリーファミリーのうち、ローターアクター、インターアクター、青少年交換留学生、RYLA の記事がございます）。

4. 10月23日（日）、24日（月）、「世界ポリオデー2580」を開催します

国際ロータリーの最優先事項は「ポリオの根絶」です。国際ロータリーは、1985年、世界に約35万人と推計されるポリオウイルスに感染した子どもたちにポリオの根絶（当時は「撲滅」）を約束しました。2021年、ポリオの症例数は過去最小の6件までになりました。しかし、今年その症例数は19件（8月10日現在）となり、米国では10年ぶりにポリオウイルスの感染者1人が確認され（※）、ニューヨークやロンドンでも下水からポリオウイルスが検出されています。ポリオは新型コロナウイルスとともにウイルスによる感染症です。ポリオは国境を無視します。新型コロナウイルスのように、ポリオウイルスが感染拡大する世界を想像し、改めて気を引き締めるべきではないでしょうか？ 10月23日の「世界ポリオデー2580」をプログラムしました。会員の方々と共に、さらに近隣クラブと共にその活動計画を考えてみませんか？ チーム嶋村ポリオデーチームが支援させていただきます。



なお、地域コーディネーターにより「世界ポリオデー」のサイトが開設されています。このサイトの「リソース」ページには、例会や研修で使えるポリオに関する資料集のほか、他クラブ（他地区）の実施事例があります。ぜひ覗いてみていただきたいです。新しい発見があります。

「世界ポリオデー」のサイト：<https://www.endpoliorotary.club/resouce>

※ BBC ニュースによると、ニューヨーク州保健当局は、患者はポリオのワクチンを未接種、弱毒化させた生きたウイルスが入ったワクチンの接種者と接触したのが原因ではないかとしています。

5. 9月はロータリーの友月間です

みなさんのクラブでは、ロータリーの友をどのように活用していますでしょうか？ ロータリーの日本での唯一の機関紙、ロータリーの友は、ロータリアンの三大義務と呼ばれる例会の出席・会費の納入とともに、その購読が義務になっています。ロータリーの友7月号の巻頭で、2022年7月よりロータリーの友委員会委員長になられた高野孫左エ門さん（甲府 RC）は「学び・考える「ロータリーの友」を目指す」と記述されています。

私は今まで、数多くの記事をロータリーの友に掲載していただいています。特に自身の会長年度は、すべての奉仕活動の記事を投稿することを決め、結果、5つの記事が掲載されました。月初めに真新しいロータリーの友のページを開くワクワク感は今でも鮮明に覚えています。また、ロータリー・アット・ワークに掲載されている他のクラブの活動は、奉仕活動のアイデアを考えるのに最適です。他地区のクラブの

チーム嶋村 ガバナー月信

奉仕活動に共感を覚え、そのクラブに奉仕活動の内容の問い合わせをしたこともありました。

現在、ロータリーの友のサイトには、何時でも読めるロータリーの友電子版(※1)だけでなく、また、電子版アーカイブも本年度より掲載されており、古き良き時代のロータリーの記事から学ぶことも可能になっています(※2)。会長のみなさん、奉仕活動のアイデア出しのためにロータリーの友を活用してはいかがでしょうか？

「ロータリーの友」のサイト：<https://rotary-no-tomo.jp/>

※1 電子版のIDとパスワードは、各RC事務局へお問い合わせいただければと存じます。

※2 1953年1月の創刊号から掲載されています。

9月は「基本的教育と識字率向上月間」でもあります

私のロータリーモーメント（心に残るロータリー体験）③：

「ミャンマーの田舎に小学校を建てる」

自身の会長年度（2016-17年度）、ミャンマーからの米山奨学生、モートウザチョウさんのカウンセラーをさせていただきました。彼女の夢は、母国ミャンマーの田舎に小学校を建てることでした。その夢の実現のために会員が団結し、合計3校の小学校を建設することになりました。2018年2月10日、ティーテュー村での完成式、モーさんの涙と子どもたちの笑顔と村人の歓迎に感動しました。未だに忘れることはできません。寄附により出来上がった小学校には、地元の行政から先生が派遣され、教科書の支給も始まりました。



ミャンマーの田舎の教育事情や、小学校が出来上がるまでは村人が教えていたことを考えると、識字率の向上は目覚ましいものがあると思われま

しかしながら、2021年2月1日に起きた国軍によるクーデターにより、ミャンマーの国情は一変しました。たいへん心配しています。

ジェニファー・ジョーンズ RI 会長の言葉を紹介します

「今の時代は、平和と団結を必要としています。違いがあっても共通点を見いだしてお互いを受け入れることが大切です」

Reach Out for World Peace 世界の平和のために手をさしのべよう

2022年9月1日

国際ロータリー第2580地区ガバナー 嶋村文男

※ガバナーへのメッセージをお待ちしています→ info@motoffice.jp

チーム嶋村 ガバナー月信

チーム嶋村「元気なクラブづくりのための鼎談」第4回：

「ガバナー公式訪問フォーラムをクラブコミュニケーションのきっかけに」

嶋村文男ガバナーと、東京小石川 RC 会長の谷一文子さん、浦添 RC 会長の比嘉弘二さんとで「ガバナー公式訪問フォーラム」の鼎談を行いました。

今回は東京小石川 RC、浦添 RC で実施したガバナー公式訪問フォーラムの情報提供です。ガバナー公式訪問フォーラムを行う際のご参考にしていただければと存じます。内容は、どういふことを行ったか、どういふ効果があったか、こういふふうに行ったほうが良かった、そして、会員からこういふ声があったかなどです。嶋村ガバナーからは、「ガバナー公式訪問フォーラムを入れたの



は、クラブコミュニケーションをしっかりと行うことの意味があります。ガバナー公式訪問フォーラムを通じて話し合うことが大切ということです。会長の思いを達成するためには、まずは会員のみなさんの意見を聴くことが大切です。ガバナー公式訪問フォーラムにはそんな機会にしてほしいという思いがあります」とのことです。いずれの会長ともに会員とのコミュニケーションからロータリーについての気づきを得ました。また、奉仕活動のヒントとしたり、改善のためにクラブ活性委員会のテーマとしたりしています。

今回の鼎談のポイントは次のとおりです。

①実施スタイルはクラブによって、いろいろです

- ・東京小石川 RC は、出席人数が少なかったことを活かして、会員全員からお一人1分、何でも良いのでお話をいただきました。ガバナー公式訪問フォーラムの実施時間は50分でした。
- ・浦添 RC は、「クラブの強みと弱み」、「例会の工夫」など4つのテーマを事前に決めて、会長がファシリテーションを行いました。実施時間は80分でした。

②コロナ禍でお話する機会が少なくなっている中、ロータリーについてお話したことですっかりした会員がいます

③先輩会員がロータリーについてお話することで、入会して間もない会員に好影響があります

谷一会長からは、「とにかくやってみることです。初めは心配でした。どうやったらできるか、不安でした。会員のみなさんがお話ししてくれるか、わかりませんでした。だけど、みなさん、お話ししてくれました。これからもトライしていきます」とのコメントをいただきました。

比嘉会長からは、「まずは楽しくするのが一番です。楽しくするには、ガバナーや他の会員にぎくばらんにお話しし合えるテーマがあれば、活気が出ます。そのあたりを練り、または計画すると、もっと楽しくなるのではないのでしょうか？」とのコメントをいただきました。

※ YouTube からご覧いただくこともできます (31分13秒)。下記 URL をクリック。

<https://youtu.be/-MRelfNgM0k>

目次：

1. クラブの概要
2. どんな形でのガバナー公式訪問フォーラムを行いましたか？
3. ガバナー公式訪問フォーラムでどのようなお話し合いがありましたか？
4. ガバナー公式訪問フォーラムをこれからどう活かしますか？
5. ガバナー公式訪問フォーラムをもっと良くするために

1. クラブの概要

嶋村（敬称略。以下同じ）：元気なクラブづくりのために、ガバナー公式訪問のスタイルを変えました。ガバナー公式訪問フォーラムをお願いしています。まずは、事前にガバナー補佐によるクラブ協議会。それをもとにたっぷり時間をかけた会長幹事懇談会。クラブの例会にてガバナーからのアドレス（卓話）。その後、ガバナー公式訪問フォーラムです。現在（8月2日）までにガバナー公式訪問を10クラブで行いました。そのうち9クラブで、ガバナー公式訪問フォーラムを実施いただきました。あくまでガバナーからのお願いです。そこで、ガバナー公式訪問フォーラムで何を行うのかという質問をいただいています。本日、実際にガバナー公式訪問フォーラムを行った、東京小石川 RC の谷一会長、浦添 RC の比嘉会長に出演いただきます。どういうことを行ったか、どういう効果があったか、こういうふうに行ったほうが良かった、そして、会員からこういう声があったということをお聞かせいただければと思います。まずは、谷一会長、自己紹介とクラブの概要を教えてくださいませんか？



谷一：前々年度、地区幹事を務めました。本年度、会長を務めています。いろいろ準備を進めてきました。しかし、準備不足のところもあり、心配しているところもあります。東京小石川 RC の会員数は、現在 35 名です。高齢者率が高いです。ガバナー公式訪問に出席できたのは 14 名でした。ちょっとこじんまりしていましたが、仲良しクラブですし、親睦も盛んなので、ガバナー公式訪問フォーラムでたくさんの意見をいただくことができました。



嶋村：たいへん活発な議論をしていただくことができました。現在、沖縄にきています。今回 8 クラブを回るうち、本日までに 6 クラブを回りました。先週、ガバナー公式訪問を行いました浦添 RC の比嘉会長から、まずはクラブのお話しをしていただけますか？

比嘉：浦添 RC は本年、56 年目に入ります。歴史がありますので、重荷に感じる場所もあります。先輩方もいらっしゃいます。学びに積極的なクラブです。私は入会 6 年目です。先輩方にいろいろな行事に、学びの機会に出させていただき、良い経験をしています。コロナ禍で会員数が 35、36 名から現在 28 名に減少しています。会長として率先して、会員増強に力を入れたいと考えています。

チーム嶋村 ガバナー月信

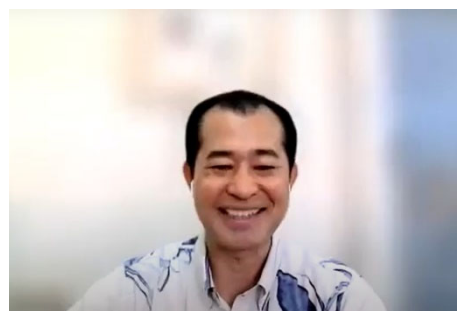
2. どんな形でのガバナー公式訪問フォーラムを行いましたか？

嶋村：ガバナー公式訪問フォーラムを入れたのは、クラブコミュニケーションをしっかり行うことの意味があります。ガバナー公式訪問フォーラムを通じて話し合うことが大切ということです。会長の思いを達成するためには、まずは会員みなさんの意見を聴くことが大切です。ガバナー公式訪問フォーラムにはそんな機会にしてほしいという思いがあります。どんな形でのガバナー公式訪問フォーラムをされたか、東京小石川 RC からお話しいただけますか？

谷一：ガバナー公式訪問フォーラムの時間ですが、80分という要望でした。60分に短縮させていただきました。実際には50分でした。なかなか長時間は難しい方々が多かったからです。また、当初は「教えて！ 嶋村ガバナー」という題を付けていました。事前に質問をいただいて、それに答えていただくというイメージでした。しかし、これではダメだなと思いました。お1人1分、何でも良いのでお話しください。ガバナーからの趣旨に沿うようにしようと。ガバナーへの質問も含めて何でも良いと。東京小石川 RC は本年52年目です。次の50年に向けて行動することを目標としています。次の50年に向けて会員自身が何をしたいか。自分が次の50年のための第一歩として何をやりたいかをお一人おひとりからお話ししていただきました。

嶋村：たいへん印象深いガバナー公式訪問フォーラムでした。素晴らしい意見が出て楽しかったです。現在までに、9クラブでガバナー公式訪問フォーラムを行なっていただきました。いろいろな形がありました。あるクラブでは、5つのテーブルに入会順で分けて座っていただき、それぞれのテーブルにガバナーが入ってお話しを聴いていきました。それぞれのテーブルでお話しした内容をテーブルごとに発表し、それに対して、ガバナーがコメントしました。いろいろなクラブの個性があって、会長の思いがあるのが良いのではないかと。あるガバナー補佐から、ガバナー公式訪問フォーラムの形を決めたほうが良いのでは？という意見もありましたが。ついで、浦添 RC はいかがでしたでしょうか？

比嘉：浦添 RC のガバナー公式訪問フォーラムのテーマは「楽しい元気なクラブをつくるには？」でした。テーマに基づき会員から意見を出していただき、それに対してガバナーからもお話しをいただきました。「楽しい元気なクラブ」のためには活気が必要です。そこで、ガバナーとのやりとりの中で、4つの項目を挙げました。まずは、「クラブの強みと弱み」を遠慮なく会員からお話しいただきました。ついで、「例会の工夫」です。今までと同じではダメではないかと、ガバナー公式訪問フォーラムで本音を言うていただくことにしました。あと、「RI と地区の方向性」についてです。新入会員向けにということです。それと挑戦している「ロータリー衛星クラブの立上げ」についてです。以上4点について、議論をしました。



嶋村：ガバナー公式訪問フォーラムを行って、それぞれのクラブの課題、関心事が異なるということが良くわかりました。また、クラブフォーラムを行っていないクラブがあることに驚きました。比嘉会長、ク

ラブフォーラムはプログラムに入っていないのでしょうか？

比嘉：今回、初めてです。

嶋村：東京小石川 RC はいかがでしょうか？

谷一：クラブフォーラムを開催したことはありますが、ガバナー公式訪問フォーラムのように会員全員が発言というのはありませんでした。私が入会してから、全員が発言したのは初めてです。

3. ガバナー公式訪問フォーラムでどのようなお話し合いがありましたか？

嶋村：私の所属している東京東江戸川 RC は五大奉仕で行っています。奉仕ごとにテーブルで分かれて議論を行い、テーブルごとに発表するというものです。クラブによって異なるのだなぁと思いました。どのようなお話し合いがあったか、浦添 RC からお話しいただけますか？

比嘉：まずは、「クラブの強み・弱み」についてです。強みとしては、学びに対してです。たとえば、RLI 受講者の多さなどです。弱みとしては、例会で話す機会が少ないことが挙がりました。例会前後の会話が少なくなってきたのではないかと。工夫が必要ではないかという意見もありました。

嶋村：比嘉会長は RLI ファシリテーターの資格を持っているので、比嘉会長がガバナー公式訪問フォーラムのファシリテーターを担当されていました。頼もしかったです。会長自らファシリテーションを行うスタイルもあります。東京小石川 RC はみなさんから意見が出て、それに対してガバナーがお答えするというスタイルでした。どのようなお話し合いがあったか、東京小石川 RC からもお話しいただけますか？

谷一：テーブルごと、順番にお話しをしていただきました。さまざまな意見が出ました。「会費が高い」、「出席率が悪い」という意見もありました。ガバナーへの会員紹介も必要と気付き、会員紹介も行いました。さまざまな意見が出ましたが、最後にはガバナーにまとめていただきました。会員のみなさんに、すんとんと腹落ちしました。また、RLI のように、発言したことでスッキリした感じでした。年配の会員がしっかりしたロータリー感を持っていました。すごく理解できました。私達も学ばないといけないと感じました。入会して間もない会員にも良かったのではないのでしょうか。

4. ガバナー公式訪問フォーラムをこれからどう活かしますか？

嶋村：石垣 RC の会長幹事懇談会にて、大浜会長から「入会年数の短い会員へロータリーの良さをどうにか伝えたいです」というお話しがありました。その後、ガバナー公式訪問フォーラムのファシリテーターをすることになりました。先輩会員からロータリーモーメントを聴いてもらったほうが良いと思い、お話しを聴いて回りました。ある先輩会員から、「事業がたいへんなときに、ロータリーのみなさんから応援をしていただきました。ロータリーは素晴らしい」というお話しがありました。後日、石垣 RC の入会して間もない会員から Facebook にメッセージが届きました。「ロータリーに入って良かった。これからはがんばります」。ガバナー公式訪問フォーラムを行った甲斐がありました。手応えを感じました。会員み

チーム嶋村 ガバナー月信

なさんの意見を聴けました。会長のみなさんへ感謝です。比嘉会長。ガバナー公式訪問フォーラムを行って感じたこととこれからどう活かすかをお話しいただけますでしょうか？

比嘉：ガバナー公式訪問フォーラムで会員みなさんから意見を出していただいて、課題が見えてきました。クラブで改善していかないといけません。現会長、直前会長、現幹事らでクラブ活性委員会を立上げ、クラブビジョンのことも含めてまずはお話し合うことにしました。本日も14時から1時間半、ガバナー公式訪問フォーラムで学んだこと、理事会に提出する審議案についてお話ししてきました。

嶋村：東京小石川 RC では、どのような、どう活かすかのお話しがありましたでしょうか？

谷一：たとえば、社会奉仕委員長から「社会奉仕活動に全員参加にはどうしたら良いか？」という意見がありました。とはいえ、年配の会員の場合、難しいわけです。私も社会奉仕活動は積極的に行いたいと考えています。ガバナー公式訪問フォーラムでガバナーから、「社会奉仕活動で支援のために支給するお米の袋にシールを貼るのも良いのでは？」というお話しがありました。お話し合いにより、具体的に行う方法を考えることができると感じました。また、会員増強のお話しでした。「会員増強委員会がきちんと開かれていない」、「PRが足りない」、「ロータリーの中身を知ってもらうべき」というお話しも出ました。もっとPRしたいです。もっとロータリーでない人を巻き込み、ロータリーを知ってもらいたいです。たとえば、本年度、赤城山の植林活動があります。いままでは会員だけで行っていました。本年度はガールスカウトにも参加してもらいます。ガールスカウトとその家族にもロータリーの活動を知ってもらうことができます。つながりから広げていくことも有効だと考えています。他には、「ロータリーはクラブが主体なのに、地区の行事が多過ぎる」という意見もありました。東京小石川 RC は今まで地区にあまり参加してこなかったのが、会員の多くがそのように考えています。しかし、野生司パストガバナーや高橋ガバナー補佐、そして、私も地区に参加させていただいて、良いところが見えてきたので、それをクラブに取り入れています。地区に参加した会員がクラブに持って帰ることを行っていきたいですし、行いつつあります。

5. ガバナー公式訪問フォーラムをもっと良くするために

嶋村：東京小石川 RC のガバナー公式訪問フォーラムでは、それぞれ担当の委員会のお話しをしていました。そこに先輩会員がお話しをしていただく。クラブの中での役割を大切にしているのが印象的でした。那覇 RC では、「クラブの中で役割をいただけるのが嬉しい、そのためにがんばる」というお話しがありました。たとえば、SAA 担当の会員は「私はいかにクラブを楽しくするために、みんなの気持ちを良くするために一所懸命にしています」というお話しがありました。それに対して、それこそが奉仕の理念（他人を思いやり、そして他人のために尽くすこと）につながるということをお話ししました。納得いただけたようです。みなさんの意見を聴いて、私が伝えることで、ただ単にアドレス（卓話）をするよりも、理解力が高まります。私にとっても嬉しい機会でした。比嘉会長。ガバナー公式訪問フォーラムをこれから行うクラブの会長のみなさんに、もしこういう形でやったら、もっと良くなるのではないかと、もっとこういうやり方があるのではないかと、お話しいただけますでしょうか？

比嘉：まずは楽しくするのが一番です。楽しくするには、ガバナーや他の会員にぎっくばらんにお話しし合えるテーマがあれば、活気が出ます。そのあたりを練り、または計画すると、もっと楽しくなるのではないのでしょうか？ 時間を有効的にも使えます。

嶋村：浦添 RC のガバナー公式訪問フォーラムは 80 分みっちりでした。熱くお話しし合っていました。比嘉会長が会員からのお話しを聴き、コメントをされていました。谷一会長。これからガバナー公式訪問フォーラムを行うクラブの会長のみなさんへのアドバイスはありますでしょうか？

谷一：会員みんなに語ってもらうのは大事です。どなたも残さず、何かしらお話しいただくと、生まれてくるものがあるように感じます。会員がたくさんいらっしゃるクラブですと、お一人ずつお話しするのはたいへんな時間がかかってしまいます。それでも、一言、二言でもこういうことを思っているのだということをお話しいただくのをお勧めします。

嶋村：先ほどの入会順にテーブルを分けて、ガバナー公式訪問フォーラムを行ったクラブで、先輩会員からお話しをいただきました。「ひさびさにロータリーの話しをみんなでできたよ」というのが印象的でした。昔のクラブの写真を持ってきて、お話しされていました。別の先輩会員からは「ロータリーが大好きなんで、息子を入れたいが、そうすると私の居場所がなくなっちゃうから困るんだよね。ガバナー、どうしたら良いの？」というお話がありました。それに対して、「ロータリー衛星クラブはどうですか？」とお答えしたら、「何それ？」と驚かされました。そこで、ロータリー衛星クラブの説明をさせていただきました。いろいろな声をキャッチしてお話し合いをする、クラブはそういう話し合いで盛り上がるのではないのでしょうか？ また、それぞれのクラブの課題を見付けられます。ロータリアンはみなさん、お話しするのが好きです。お話しする機会をつくれれば喜んでいただけます。谷一さん。何かもう少しお話ししたいことがあれば、どうぞ。

谷一：とにかくやってみる事です。初めは心配でした。どうやったらできるか、不安でした。会員のみなさんがお話ししてくれるか、わかりませんでした。だけど、みなさん、お話ししてくれました。これからもトライしていきます。

嶋村：実は、私もドキドキでした。質問攻めにあうかもと、わからないことがあったら、後日お答えしますという対応まで考えていました。ガバナー補佐にがんばっていただき、話し合いをすることの良さに気付いていただけました。私は先輩会員からたくさん教えていただくことができました。自分自身の学びになりました。クラブの課題への気付きもありました。比嘉会長。最後に一言いかがでしょうか？

比嘉：会長として、ガバナー公式訪問フォーラムの経験は、クラブにとっても自分にとっても、すごく良い学びと、進歩がありました。

嶋村：お二人とも、会長任期はまだ 11 か月あります。それぞれ設定した目標に向かって、邁進していただきたいです。

以上

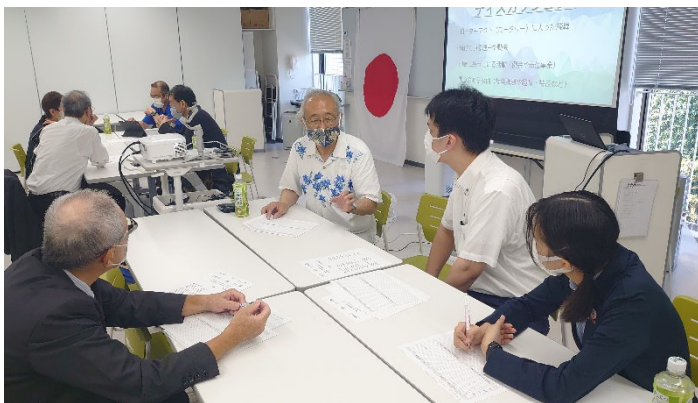
チーム嶋村 ガバナー月信

チーム嶋村ガバナー月信編集委員会レポート

①「7/24、ローターアクトクラブへの「ガバナー訪問交流会」(北分区)開催

執筆：地区幹事 永井正己

7月24日、国際共立学園高等専修学校にて、ローターアクトクラブ(以下、「RAC」)への「ガバナー訪問交流会」が開催されました。今回は北分区のRACが対象で、荒川RAC、東京池袋豊島東RAC、東京浅草中央RAC、東京上野RACになります。ロータリアン含めて33名が参加しました。北分区以外のロータリアンとローターアクターも参加でき、互いに多くの交流を深める機会となりました。談笑が絶えず、終始和やかな雰囲気でした。3時間があっという間に過ぎました。



メインプログラムは2つです。前半に嶋村文男ガバナーと春木優杏地区ローターアクト代表の卓話、北分区の各RAC会長の所信表明、後半に「ロータリーとローターアクトの未来について考える」のグループディスカッションが行われました。グループディスカッションでは、提唱クラブのロータリアンとローターアクターで班を分け、北分区以外は2班に分かれて行いました。入会のきっかけや動機、クラブを続けている理由を簡潔にお話ししてから、印象に残っている活動、関心事について語り合いました。続いて、地域の課題や取り組みたいこと、ロータリアンとローターアクターでどういった活動ができるかのテーマになりました。本年度はローターアクトも参加できる多くの地区行事があり、各テーブルでは、お互いにどのように取り組むかといった対話ことができました。

②「7/30、ローターアクトクラブへの「ガバナー訪問交流会」(沖縄分区)開催

執筆：地区ガバナー月信編集委員会 委員 儀部頼人

7月30日、那覇市内のパシフィックホテルにて「ガバナー訪問交流会」(沖縄分区)が行われました。当地区のみならず北海道からもローターアクターが参加し、ロータリアンと合わせた参加者数は65名でした。

初めに、嶋村ガバナーがガバナー信条と地区運営方針などを共有しました。続いて、春木地区ローターアクト代表より在京RACの活動紹介、その後、那覇RACの活動紹介が行われ



ました。また、事前にローターアクターから質問を募り、来場しているローターアクターやロータリアンに回答していただくというプログラムも行いました。

③「7/31、環境保全クリーン活動「荒川クリーンエイド」を実施」

執筆：地区幹事 永井正己

コメント：東京江戸川中央ロータリークラブ 会長 山田太熙

7月31日、東京江戸川 RC、東京東江戸川 RC、東京江戸川中央 RC の会員とそのご家族、ローターアクター（参加者 48 名）で、環境保全クリーン活動「荒川クリーンエイド」を実施しました。荒川河川敷（都営新宿線「東大島駅」付近）のゴミ拾いです。

真夏の日射しの中、小まめに水分補給と休憩をとり熱中症に気を付けました。遠くからは綺麗に見える川沿い

も、近くに寄って見ると、空き缶やプラスチックなどのゴミがたくさんありました。

ロータリークラブの合同活動でもありました。小さい子どもやローターアクターも含めたロータリーファミリーが奉仕活動に集い、楽しい交流もできました。

なお、この日の活動の様子は、国際ロータリー第 2580 地区 YouTube チャンネルの「荒川クリーンエイドレポート」として掲載されています。ぜひご覧いただきたいです。

URL: <https://youtu.be/DE8bDsCwhFw>

東京江戸川中央ロータリークラブ、山田太熙会長からのコメントです。

「この度、我々の親クラブである東京東江戸川ロータリークラブ及びローターアクトクラブの恒例イベント「荒川クリーンエイド」にお声掛けいただき、初参加させていただきました。環境保全クリーン活動日ということもあり、東京江戸川ロータリークラブとも合同で、過去最多の人数で、猛暑の中、誰一人けが人もなく実施できたこと、たいへん嬉しく思います。

他クラブの会員だけでなく、ローターアクター、ロータリアンのお子様たちとも一緒に社会奉仕活動ができ、交流・親睦と合わせて、そして、皆が志を共にできました。ロータリーファミリーとしての絆も実感出来ました。この奉仕活動に参加した方や、この奉仕活動を見た、聞いた方が、この奉仕活動を広め、不法投棄のゴミのない世の中になることを期待しております。

もちろんこの奉仕活動を自クラブの実績として、SNS や WEB サイトにも公開し、公共イメージ向上にもつなげたいと思います。今回残念ながら参加できなかった会員にも報告し、次回はより多くの会員と継続して参加したいと思います」



④「7/30、環境保全活動「ビーチクリーン」を実施」
執筆：地区ガバナー月信編集委員会 委員 儀部頼人
コメント：那覇ロータリークラブ 会長 金城智誉

7月31日（日）、午前10時から、那覇市にある「波の上みそら公園」にて、那覇ロータリークラブ、那覇ローターアクトクラブ、東京ワセダロータリークラブ、東京ワセダローターアクトクラブの合同によるビーチクリーン活動が行われました。当日は嶋村文男ガバナーも参加され、総勢50名でした。たくさんのメンバーが集まり友好も深めることができました。

嶋村文男ガバナーからは、「台風が通りすぎた後で天気が心配でしたが、参加者のみなさんの情熱で雨雲を吹き飛ばし、晴天の中、汗だくになりながらも、メチャクチャ気持ちの良い時間を過ごしてきました」とのことです。

那覇ロータリークラブの金城智誉会長からのコメントです。

「私がロータリーに入って良かったと最初に感じたのは、国際通りのクリーン活動をした時でした。インターアクトのみなさんが、おしゃべりしながら楽しそうにゴミを拾っているのを見て、奉仕活動を楽しむことを教えてもらいました。

今回のビーチクリーン活動でも、北海道、東京、沖縄のロータリアン、ローターアクター、その家族が、互いに交流しながら奉仕活動を楽しんだと思います」



世代を超えた交流と発見 ～ローターアクトクラブへの「ガバナー訪問交流会」を経て～ 執筆：地区ローターアクト代表 春木優杏

18歳以上の若者で構成されるローターアクトクラブは、ロータリーの次世代を担う存在とされています。現在第2580地区には16（在京14+沖縄2）のクラブがあり、約200名の会員が所属しています。ロータリーと同じくクラブ例会の開催に加え、若い世代ならではの発想力・行動力を活かした奉仕活動を実施しています。なぜこれまで、ロータリーは青少年奉仕活動を経て、若い世代への働きかけを続けてきたのでしょうか。不変と思われる理念であっても、時流とともに少しずつ補完・更新されていきます。それはロータリーにおける原点ともいえる「Ideal of Service」も例外ではありません。ロータリーの価値観を若い世代に対して問いかけ、共に活動をする中で、世代を超えて対話を重ねることで、ロータリーは再構築されていくと私は解釈しています。故に日々ローターアクトは、ロータリアンと交流し、共に奉仕する中で、ロータリーを噛み砕いて解釈し、少しずつ理解を深めていっています。

ガバナー公式訪問はロータリークラブのみに対して行われますが、嶋村文男ガバナーがローターアクトに対して大きな期待を寄せていただいていることもあり、本年度はローターアクトクラブも対象に「ガバナー訪問交流会」として実施しています。既に7/24(日)に北分区、7/30(土)に沖縄分区で実施し、延べ約100名のローターアクト・ロータリアンにご参加いただきました。「ロータリアンとローターアクトが相互に交流し、今後の活動における接点を育むこと」を行事の目的とし、ガバナー・地区ローターアクト代表からのスピーチに加え、分区内のクラブ会長より各クラブの方針やターゲット、活動紹介などをしていただきました。また、双方が協力して各地域で実施できる奉仕事業について企画を行うための対話の機会を設けました。



春木地区 RA 代表

嶋村ガバナー

那覇 RAC 喜舎場会長

ロータリアンと共に奉仕活動を企画

ガバナー訪問交流会でのさまざまなロータリアンとの対話を通してローターアクトとして気付いたことは、行動力・発想力を持ったローターアクトと、経験・人脈・ブランド力を持ったロータリーが力を合わせることで、さらなる良い影響を社会に与えられる可能性があることです。双方の有する資源が異なるからこそ、そして年齢や経験や価値観が異なるからこそ、これまでになかったような化学変化によってアイデアが生まれ、それぞれが得意な分野で協力することができると確信しています。DEI（多様性・公平さ・インクルージョン）を推進することで、公平さ・温かい文化が育まれるだけでなく、ひいてはロータリーの可能性を押し広げることに繋がっていくのではないのでしょうか？ これからも地区ローターアクト代表として、ローターアクトとロータリアンとの関係性を深められるような機会を創出していきます。

第57回インターアクト年次大会報告

執筆：地区インターアクト委員会 委員長 藤本誠一

8月7日（日）、新型コロナウイルスの感染拡大により開催中止を余儀なくされていた、「インターアクト年次大会」が、ホスト校：城西大学附属中学・高等学校、スポンサークラブ：東京池袋西ロータリークラブにより、3年ぶりに開催されました。当初は、対面による開催が計画され、沖縄のインターアクターのみなさんとの交流事業も予定されており、久しぶりに当地区のインターアクト全体での交流ができると期待されておりました。しかし、7月に入ってからの新型コロナウイルスの第7波により対面での開催を断念せざるを得なくなり、急遽オンラインでの開催となりました。



そのため、プログラムの多くの部分に変更を生じましたが、関係者みなさまのご努力により、時間的に短縮された中でも最大限に効果を引き出せる内容を作り上げていただきました。大会テーマは「誰も置き去りにしない世界 ～私たちにできること～」でした。当日は、12:30～12:50、「開会式」、13:00～16:00、「SDGs ワークショップ」、16:10～16:30、「閉会式」のタイムテーブルで実施されました。

「SDGs ワークショップ」は、幅広い世代へのSDGs教育を行う社会起業家「World Road」の市川太一さんと平原依文さんの手慣れたファシリテーションにより、インターアクターたちの考えが導き出され、活発な意見交換の場となりました。その中で、それぞれが自己開示をし、自身の長所を再認識しながら、自身の夢や目標を具現化していきました。

たとえば、次のとおりです。

「自身の身体的なハンディキャップを気にしていたが、自己開示することでそのことがSDGsの目標の一つである「ジェンダー平等を実現しよう」につながると思う」

「自分が良かれと思っていることが相手に対しそうでない場合がある。もっと国際理解を深め人に寄り添う世界の実現に貢献したい」

自身の目標に向かう姿勢が、人に寄り添う世界を築き、SDGsの実現に繋がるのだと体感できるワークショップでした。まさに、インターアクトの目的である「奉仕と国際理解に貢献する世界的友好精神の中で、相共に活動する機会を青年男女に提供すること」をインターアクターが意識する良い機会になりました。

次年度の「インターアクト年次大会」は、ホスト校：那覇商業高等学校、スポンサークラブ：那覇西ロータリークラブにより開催される予定です。新型コロナウイルスの感染拡大が終息し、対面での開催が実施できることを祈っております。

チーム嶋村 ガバナー月信

青少年交換プログラム再開しました ～来日学生の出迎えとサマーキャンプ～

執筆：地区青少年交換委員会 委員長 飯塚憲貴

新型コロナウイルス感染症の世界的規模な拡大を受け、2020年3月末までに青少年交換プログラムに基づいて留学していた学生たちが帰国を強いられてから、2年が経過しました。その間、世界に通用する、世界に貢献する人材を輩出する素晴らしいこの奉仕活動を止めてはならないと、当時のガバナーをはじめ多くのロータリアンたちが、再開するために模索をしていました。多くの試練や困難を乗り越え、嶋村文男ガバナーのもと、本年度は青少年交換プログラムを再開することができました。まずは8月6日に日本からフィンランドに2名を派遣、翌日7日に5か国から8名の高校生たちが来日しました（内訳：フィンランド2名、ベルギー2名、フランス2名、アメリカ1名、カナダ1名）。コロナ前は、10か国10名の交換留学でしたが、感染リスク、感染後の医療体制などを考慮して、この体制となりました。

少しずつ旅客は戻ってきているとはいえ、コロナ前と比べて閑散としていた成田国際空港。感染対策には十分注意し、ホストクラブの会長、幹事、カウンセラー、ファーストホストファミリー、ROTEXなど多くの方が集まり、来日学生たちを出迎えました。長時間のフライト、そして到着後の手続きを終え、日本の地に降り立った来日学生たちはその出迎えで安心し、みんな安堵の表情を浮かべていました。コロナ前であれば、一旦ホストファミリーと1週間ほど暮らしを共にして、日本での日常生活に慣れてから、日本語や文化を学ぶサマーキャンプに参加していました。しかし、感染リスクを下げるために、本年度は空港から埼玉県所沢市にあるコロンビアインターナショナルスクールに移動し、サマーキャンプを行いました。なお、こちらの田中博理事長が東久留米ロータリークラブ所属のため、例年、学校施設の他、学生寮なども提供していただいております。

サマーキャンプ（11日間開催）では、まず各自の日本語の現状のレベルを測るためのテストが行われ、それをもとに2つのクラスに分けられます。本年度は1名の来日学生がずば抜けておりました。日本語を教える先生たちに上手くクラスを振り分けていただけました。授業は、途中30分ほどの休憩と1時間の昼食時間をはさみますが、午前中は10:00～13:00、午後は14:00～17:00に行われました。ただ勉強するだけではなく、水野正人



パストガバナーによるロータリアンセッション、書道、映画鑑賞、電車や外食の経験も行いました。サマーキャンプの日程の後半は、次年度、日本から海外へ派遣される第58期派遣予定学生たちも合流し、川越へ遠足を行いました。また、遠山明良地区幹事の御手配による風呂敷講座、BBQ、スポーツ大会なども催しました。本年度の来日学生たちは、例年と比べたいへん素直で物覚えが良く、最終日の8月17日に行われた閉校式では大変素晴らしいスピーチを披露してくれました。

その後、ホストファミリーがお迎えに来ていただき、それぞれの家庭に移動していきました。みんな笑顔でこれからの日本での生活に胸を躍らせていました。この1年で素晴らしい成果を見せてくれるものと思います。また直接的に関わりのないクラブにおいても、地区大会や派遣国発表会、帰国前報告会などにご参会いただき、彼ら彼女らの成長を見守っていただければ幸いです。コロナ後の青少年交換プログラムについて何が正解かわからない中での活動となりますため、関係者の方々にはご迷惑をおかけすることも多々あると思います。どうぞこの8名の小さな親善大使たちのためにご協力をお願いします。

チーム嶋村 ガバナー月信

3年ぶりのRYLAセミナー再開

執筆：地区RYLA委員会 委員長 田名 毅

当地区のRYLAセミナーは、松坂順一ガバナー年度に本年度の嶋村文男ガバナーがディーンを務めて、第一回が開催されました。第二回開催後、コロナ禍のために2年間中止を余儀なくされました。そのRYLAセミナーが本年度にいよいよ再開されます。第7波のために例会が休会になるなど未だ影響は続いています。来年2月23日から26日まで、十分な感染対策の上、開催できることを信じて準備しています。

私は第一回、第二回のRYLAセミナーにて幸運にもカウンセラーを務めました。印象に残ったことを二点、紹介します。

①一番の醍醐味は初日に発表されるフォーラムテーマに関するグループごとの時間をかけた議論です。大学生から30歳前後の社会人まで年齢的に幅広い層がいますので、最初は盛り上げるために社会人がリードします。議論が2日目となり、お互いの本音をぶつけ合った頃から、今度はどのような結論をグループとして導き出すか、それぞれが真剣となります。このあたりから過去2回の開催とも社会人に代わり大学生がリーダーシップを発揮し始めました。いわゆる主導権が社会人から大学生に移行します。社会人は大学生の成長ぶりに驚きながらもその議論の流れに共感し、得られたグループの結論、大学生による発表の様子を誇らしく感じ、グループ全員で見守ります。その光景はまさに若い世代のリーダーシップをはじめとする潜在能力が芽吹いた瞬間をグループ全員で共有する瞬間になります。



②私が良かったと感じたのはグループに米山奨学生やその学友が参加することです。第二回の際にアフリカからの米山奨学生が私のカウンセラーを務めるグループにいました。グループでそれぞれの家庭環境について情報交換をした時、彼は自身のセネガルの親子関係、大家族のことをお話ししてくれました。私たち日本人が希薄になりがちになっている家族、親戚との関わりのおお切さを改めて気付かせてくれたことで、その後の議論に深みが出ました。彼が参加してくれたことで、国際性、多様性（イスラム教など）の理解にもつながりました。

他のグループにおいてもたくさんの出会い、感動が各々にあったと思います。第一回参加者の土方美樹さん（東京福生RC推薦）はRYLAセミナーのことを「人生の中で最も熱い三日間だった」としています。現在、地区RYLA委員が全クラブに卓話にうかがえるように準備をしています。その中で土方さんのビデオメッセージも上映します。ぜひ卓話の機会をいただけますよう、よろしくお願いいたします。

最後に、本年度の第三回セミナーについてです。今回は三泊四日と従来よりも一日多い日程になっています。より多くの感動・出会いが得られると期待しています。会場は現在NHKで放映されている「ちむどんどん」の舞台である沖縄県の山原（ヤンバル）の大自然の中にあります。嶋村ガバナーも2回視察に来ていただきました。3名の特別講師には、①山原を通して環境問題、②芸術を通して基地問題から平和、③外国の研究者からグローバルな視点の重要性をそれぞれお話しいただきます。未来の地域のリーダーが育まれることを期待しています。なお、未だロータリーのことを詳しく知らないロータリアンのお子さん・お孫さん・会社職員、大歓迎です。ぜひ参加者のご推薦を心よりお待ちしております。

チーム嶋村 ガバナー月信

「奉仕の理念」を再認識、ロータリーの未来への可能性に挑戦しよう

第2回「奉仕の理念モーメント」と「利己と利他の調和」

執筆：地区職業奉仕部門 部門長 藤掛靖元

会長のみなさま、こんにちは

みなさまは「ロータリーモーメント」という言葉を聞いたことがあると思います。「心に残るロータリー体験」ですね。「奉仕の理念モーメント」となると、「心に残る奉仕の理念の体験」、これは私が勝手に作った言葉なので、当然、それ何？だと思います。今回はこの「奉仕の理念モーメント」を探り、そこから奉仕の心である「利己と利他の調和」について考えて見たいと思います。

「この世で一番大切なものは何ですか？」と問われた時、何と答えるでしょうか。物理的な物体、心理的なもの、など観点により多くの答えがあると思います。物理的な物体（お金、地球環境等々）、心理的なもの（愛、夢、才能等々）を除くと、家族、恋人、友人・・・、そして自分。自分を取り巻く他人と自分が浮かび上がります。自分も大切、しかし他人も大切、人間なら誰でも持つ感情だと思います。

経営理念の中によく出てくるキーワードに、「お客様第一」、「お客様満足」という言葉があります。我が社（自分）の都合より先にお客様（他人）の都合を優先する等々。ここで恐縮ですが、私の体験を書かせていただきます。私の会社はバレエ、社交ダンス、ステージ衣装、舞踏衣装などの装飾性の高い生地（特殊生地と呼んでいます）を扱っています。装飾性があり、なおかつ機能性も高い、相反する特性を満足させる生地を提供することがポイントとなります。これはロータリーに入会する前、今から40年以上も前のお話しです。お客様が求める生地を如何にしたら提供できるか、お客様のお話しを聴き、仕入先に足を運ぶ日々が続きました。ようやくそれが実現し、お客様に喜んでいただいた時、私は初めて、何とも言えない喜び、心の満足とも言える体験をしました。今までは、お客様のご要望にお応えすることより「ライバル会社に勝つ」ことが最優先でしたが、その時、心に湧いた想いは「まず相手のことを考え、相手のためになることに誠を尽くそう」でした。その体験がその後の営業活動の糧となったのです。

会長のみなさまのほとんどが経営者の方だと思いますので、このような体験をされたことも多いと思います。今、この時に心に湧いた想いを言い換えると「他人を思いやり、そして他人のために尽くす」であり、これはまさに「奉仕の理念モーメント」でありました。もうお気付きのことと思います。この「他人を思いやり、そして他人のために尽くすこと」（チェスリー・R・ペリー）、これが「奉仕の理念」なのです。みなさまもぜひ今までの体験を思い返し、「奉仕の理念モーメント」を探り、会員のみなさんにお伝えしたら如何でしょうか。

ここでもう一步考えを進めて見ましょう。先程、自分も大切、しかし他人も大切、と書きました。先程の私の体験でも書きましたが、「自分が勝つ」は誰でも持つ感情です。そこに利他の心が湧いてくる。その思考こそ「自他を分かたぬ思考」、「自分と他人とはバラバラの存在するように見えるが絶ち難いある種の目に見えない紐によって結ばれているという意識」と言えるでしょう。「自他を分かたぬ思考」、言い換えると「利己と利他の調和」です。「奉仕の理念」を言い表すもう一つの概念です。

今回はこの「奉仕の理念」がどのように確立されたのか、その歴史の再認識をします。

チーム嶋村 ガバナー月信

入会者情報 ～クラブにおける会員増強のためのヒント・アイデアを提供します～

1. 情報収集の時期

2022年7月16日から8月15日まで（なお、入会日は7月1日から8月4日まで）

2. 入会者数（任意の提供ですので、実際の人数とは合致していないと存じます）

23名

3. 入会者の年齢層（小数点第2位切捨て）

	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
人数	0	2	8	7	4	2
割合	0%	8.6%	34.7%	30.4%	17.3%	8.6%

※最年少31歳、最年長82歳

4. 入会者の性別（小数点第2位切捨て）

	男性	女性
人数	21	2
割合	91.3%	8.6%

5. 職業

ホテル（コンベンション）、持株会社、不動産、生命保険業、飲食業、弁護士、機械部品製造、介護事業、運送及び梱包業、ITサービス、計測器製造販売、教育、不動産投資、観光事業、精密計器製造、葬祭業（2名）、建築設計、船舶修理販売、ワイン販売・飲食業、建築・防水・塗装業、イベント制作業

6. 紹介者との関係

職場の部下（紹介者退会に伴う入会）、大学の後輩（同じゴルフクラブに所属）、仕事上の関係、取引先、クラブのサイトを見て、大学の同窓（OB会10年以上交流、JCに4年間所属）、同じ法人会に所属（3名）、友人（5名）、元会員（2名）、同じ法人の後任（3名）、後輩（2名）、知人、青年会議所の後輩

7. クラブ別の入会者数（クラブ名、一部省略）

東京（2名）、東京城北（1名）、東京セントラルパーク（1名）、東京お茶の水（1名）、東京ワセダ（1名）、東京リバーサイド（5名）、東京後楽（1名）、東京江東（1名）、東京秋川（2名）、宮古島（3名）、那覇東（2名）、名護（1名）、那覇南（1名）、以上13クラブから回答

8. 特記事項

①東京お茶の水RCへの入会者、37歳の男性（飲食業）は、同RCのサイトを見て、同RCがその男性の経営する飲食店で懇親会を開催している時に、入会の意向を伝えてくださったとのこと。また、②那覇東RCへ再入会された80歳の男性は、1968年1月に入会、2003年に仕事の都合で退会されていましたが、「再度ロータリーライフを楽しみたい」とのことで復帰されたとのこと。③後楽RCへ再入会された82歳の男性は、会社の一線を退かれたので一旦退会されましたが、クラブの会員と一緒に無理なく活動したいとのことで、特別会員として復帰されたとのこと。

ご協力いただきましたクラブのみなさま、入会者情報をご提供いただき、誠にありがとうございました。

ご厚意に対し、深く感謝申し上げます

マルチプル・ポール・ハリス・フェロー

3回	大原 正道 (東京お茶の水)
----	----------------

ポール・ハリス・フェロー

知花 なおみ (浦添)

米山功労者・メジャードナー

52回	黒沢 雅寛 (東京北)
35回	伊野波 盛求 (那覇西)
19回	宮崎 慶男 (東京福生)
15回	須藤 仁 (東京麴町)
13回	四方 満 (東京新宿)
10回	榛村 浩一 (東京セントラルパーク)

米山功労者・マルチプル

9回	志熊 昌宏 (東京後楽)
8回	松林 茂 (東京セントラルパーク)
5回	柴田 和正 (東洋四谷) 片岡 荘子 (東京ワセダ)
4回	鈴木 一成 (東京新宿)
3回	山崎 克雄 (東京北)

米山功労者

野吾 行範 (東京新宿)

7月31日分まで 敬称略、順不同

編集： 国際ロータリー第2580地区 ガバナー月信編集委員会
ガバナー月信へのお問い合わせ/コメント： info@motoffice.jp

チーム嶋村 ガバナー月信